



一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

# CSWくまもと

## Certified Social Worker

<もくじ>

- P1 八代市被災高齢者等把握事業 支援活動
- P2 (特集)こども食堂 だんらん
- P4 九州ブロック沖縄大会 参加報告
- P5 全国のハンセン病 施設を見学して
- P6 相談委員会研修 / 受験対策委員会講座
- P7 子ども家庭支援委員会研修 / 写真館
- P8 研修会のご案内

# 現地在主体となれる災害支援を実施

令和7年8月豪雨 八代市被災高齢者等把握事業 支援活動

災害時支援委員会 委員長 遠山 健吾  
12名の社会福祉士会の会員が  
八代市で災害支援活動に従事

今年8月の豪雨において、県内では10市町に災害救助法が適用されました。熊本県士会の初動としては、当委員会が運営協議会（理事、監事、ブロック長、委員長）を対象に被害状況の把握を実施しました。

9月に熊本県より県士会へ八代市の支援依頼があり、内容は被災した在宅高齢者等への個別訪問等でした。9月11日に災害対策本部を立ち上げ、活動が現地の地域包括支援センターと県士会がペアで訪問することに決まり、10月2日に八代市で、県、市健康福祉部高齢者支援課、地域包括支援センター（6ヶ所）と打ち合わせを行い、約190世帯が訪問対象となり、10月10日～23日まで、7日間で12名の会員（活動希望者31名）が支援活動に従事し、訪問後は記録を共に作成し、助言等もさせて頂きました。

今回の支援活動の情報共有もLINE WORKSを活用したことで円滑に進めることができました。11月19日には報告会を開催し、活動の振り返りを行いました。

▲ 訪問の様子



▲ 訪問後に地域包括支援センター職員と情報共有



▲ 八代市 現地打ち合わせ

# きっかけは一人の子どもから

特集・こども食堂

こども食堂 だんらん

## 社会福祉士の山口里子さんが 開催する「こども食堂」

社会福祉士の山口里子さんは、熊本市東区でこども食堂「だんらん」を年に4〜5回ほど開催されています。山口さんがこども食堂を始めたきっかけは、2015年、福岡から引越してきて、熊本で子育てをしていたところ、「着ている洋服などは普通なのに、近所に朝ごはんを当たり前に食べられない一人の女の子が近所にいることを知ったこと」だそうです。

身近に隠れた貧困の存在を知った山口さんは、「もともと料理は多めに作って食べるのが好きだった」ことから、その延長線で自分の手でできることとして、こども食堂をスタートさせました。当時は「こども食堂」という言葉もなく、今のような行政の助成金や企業の協力もないため食材の確保などの運営面は大変でしたが、人と人をつなげながら、特に世の中が盛り上がるような季節ごとのイベントは、どんな子どもにも、その楽しい雰囲気を楽しんでもらうことを大切にしながら開催されておられました。

その後、2017年にNPO法人くまもと相談所の相談事業を立ち上げ、住まいのことや家族関係のことなどの相談を受けながら、居住支援法人として生活困窮世帯や高齢者、障がい者、子どもを養育している母子父子世帯、DV被害者等に対して、住まいの確保



▲ こども食堂「だんらん」の様子



▲ 食堂の準備をする様子



▲ 山口里子さん



▲ 肥後銀行の店舗内で開催した「つどうごはん@合志」の様子

やその後の支援を実施され、現在では困難を抱える女性が自立した生活を送ることができるようになるためのシェアハウスも運営されています。

また、自立を目指す女性への就労支援を目的として、国の休眠預金活用事業の支援を受け、共に活動する7人で弁当店「ごはんやさん」を熊本市東区の健軍に出店。元はラーメン店として営業していた建物をリノベーションした店内には、しょうが焼き弁当（600円）、しょうが焼き（100グラム250円）、しょうが焼きおにぎり（300円）、白玉団子（180円）を用意。（12月現在の価格）

看板商品のしょうが焼きは、国産豚肉をしょうゆベースのたれで炒められており、弁当やおにぎりに使う米は、熊本県産米「ひのひかり」を使用。山口さんは「自宅で作っていたしょうが焼きをベースに、仲間や家族のアドバイスを受けながら何度も試作を重ねてできた」と話されています。

こども食堂「だんらん」を開く土曜日は店を休みにし、子ども食堂用の調理場として利用されており、「ごはんやさん」の収益の一部は子ども食堂活動に充てられています。

最近はこの食堂を運営する人どうしや、協賛する企業がネットワークでつながって、一緒に活動する場も増えたとのこと。10月には県内

120カ所のこども食堂で組織されている「TSDOU・NET」の声かけで、肥後銀行合志支店の店舗内でこども食堂「つどうごはん@合志」が開催され、山口さんも参加されたとのこと。金融機関の店舗内で、定期的にこども食堂を開催していくのは、全国でも事例が少ないようです。



**NPO法人 くまもと相談所**

**【活動】**

- 2015年 子ども食堂「だんらん」開始
- 2017年 NPO法人「くまもと相談所」設立
- 2019年 居住支援法人として指定を受ける
- 2024年 就労部門設立 ジェアハウス開所

**▲取材に答える山口里子さん**



**▲(上3枚の写真)山口さんがこだわる「しょうが焼き弁当」が食べられる弁当店「ごはんやさん」の様子**



山口さんは「子ども食堂も、NPO法人の相談事業も、お弁当店も、人とのつながりがあることで継続ができていて、ひとりでは限られたことができるが、それぞれが自分の手でできることをやりながら、仲間と一緒に一歩一歩進んでいきたい」と話されています。(広報委員会 田口)



弁当店「ごはんやさん」  
営業時間 11:00～14:00  
※土曜・日曜定休  
熊本市東区若葉3丁目12-11

**NPO法人で運営している女性専用シェアハウスで住まいの支援を実施 ▶**



**▲ 創立30周年記念式典祝賀会での甲斐國英様**

このたび、熊本県社会福祉士会の創設メンバーであり、長年にわたり会長を務められた甲斐國英様が11月に逝去されました。甲斐様は、本会創設時より中心的な役割を担われ、会の基盤づくりに奔走されるとともに、県内の社会福祉士の資質向上と職能団体としての発展に尽力されました。豪快で温かいお人柄は多くの会員に慕われ、会議や行事を明るく盛り上げてくださいました。そのご功績は、現在の本会の礎として受け継がれています。生前のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

会長 梅田 孝子

**甲斐國英 元会長を偲んで**

# 社会福祉士は制度の狭間に向き合い 生活への新たな視点を

## 第13回九州・沖縄ブロック社会福祉士会研修会

参加報告 地域包括委員会 理事 中村洋行

11月29日に沖縄県総合福祉センター（ゆいホール）で開催された、第13回九州・沖縄ブロック社会福祉士会研修会に次年度の視察を兼ねて12名で参加しました。

11月末なのに24度の秋晴れで九州各地の社会福祉士が参加されています。

大会テーマは「制度の狭間に向き合う！生活への新たな視点（住まい・就労・つながりに寄り添う）」をテーマに社会福祉士が課題に向き合い、多領域・多職種との連携社会を目指して考えることを目的としています。また県士会設立30周年ということで、沖縄県士会功労者の表彰式もありました。



▲ 会場の沖縄県総合福祉センター（ホームページより）

基調講演では琉球大学の上間陽子教授より「沖縄の出産・育児の現場から考える」ということで、貧困・女性の性的虐待・性暴力・妊娠・中絶率の低さ・男尊女卑・麻薬のまん延など、県民の置かれている状況をお聞きし、トラウマと支援の在り方についてお聞きしました。

妊娠した女性を支える場として出産応援施設「おにわ（沖縄・妊娠している女の子・輪になって守る）」の活動についてもソーシャルアクションして県議や市議も巻き込みながら、活動されていることを知りました。



▲ 基調講演の様子



▲ 次年度大会に向けた梅田孝子会長の挨拶



▲ 野尻裕史さんの実績報告の様子

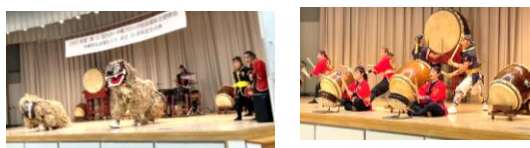
今回は熊本県が九州・沖縄ブロック研修会の担当県

2日目の分科会では、権利擁護として野尻裕史さんが熊本県を代表して、熊本県ハンセン病問題相談・支援センターの活動実績の報告を行いました。相談の中から見えてきたハンセン病回復者の社会復帰時の課題や現状などをお伝えし、参加者に関心を持っていただきました。

懇親会は沖縄演舞や琉球獅子舞などダイナミックな演舞もあり、おもてなしに驚きました。熊本県も梅田孝子会長はじめ、みなで次年度大会のPRを行いました。26年は熊本県が九州・沖縄ブロック研修会の担当県になり、11月28日・29日にくまもと県民交流館パレアホールで開催されます。県会員協力の元、大会が成功するようみなで頑張っていきたいと思えます。



◀ (写真上)熊本県から参加した会員の集合写真 (写真下)沖縄演舞や琉球獅子舞などのステージ演舞の様子



# 地域性や時代背景を理解し、正しい知識の啓発に努めたい

りんどう相談支援センター

全国のハンセン病関連施設を視察

「国立療養所沖縄愛楽園」  
 および「沖縄ゆくな協会」訪問 (25年2月)  
 りんどう相談支援センター 林田 智恵美



沖縄愛楽園では、学芸員の方より歴史資料館内の案内と説明を受け、その後、療養所敷地内に残る建造物や史跡を巡りました。前日に平和祈念資料館も訪れていたことから、沖縄のハンセン病問題とその時代背景について、より深く理解することができました。防空壕や面会室などを見学し、当時の生活がいかに過酷であったかを実感するとともに、その時代に思いを馳せました。

沖縄ゆくな協会では、地域で暮らす回復者への医療・生活面の相談支援が積極的に行われており、回復者同士の定期交流も実施されていました。訪問時にはちょうど茶話会が開催されており、3名の方から体験談や相談支援機関への期待などを伺うことができました。沖縄で見たこと、聞いたこと、知ったこと、感じたことを、今後の「啓発活動」や「相談支援」にかاشていきたいと思ひます。



▲ 国立療養所沖縄愛楽園(ホームページより)

## 国立ハンセン病資料館

および国立療養所多磨全生園訪問 (25年3月)

りんどう相談支援センター 野口 輝子



多磨全生園で収集された資料を基に設立された国立ハンセン病資料館では、全国12か所の療養所の紹介や歴史展示、「らい病療養所を生き抜いた証」の展示コーナー、そして約3万点の文献・資料が収蔵された図書館などを見学しました。講演会が開催できるホールでは、当事者による講演記録が終日放映されていました。

その中で、元患者の平沢保治氏の「許す心こそ明日の未来がある。声を上げてこそ発展がある」という言葉が深く心に残りました。敷地面積約354㎡の多磨全生園は、約250種・3万本の樹木が整備され、野鳥のさえずる広場では、子どもたちが自然に触れながら歴史を学ぶことができる環境が整えられていました。

長い間、偏見と差別に苦しんできた入所者が、故郷の山河や家族への思いを託して植えてきた「人権の森」の木々の成長は、施設の110年余の歴史と闘いを物語っていました。この理念は未来構想としても引き継がれています。今回の研修を通して、自身の認識を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。

「無知が差別を生む」「知ろうとしないことが罪である」との言葉があるように、正しい知識の啓発に努めていきたいと思ひます。



▲ 国立ハンセン病資料館多磨全生園展示



▲ 人権の森宣言の碑

# つながりと共感で

## エネルギーを補充

相談委員会

研修に参加して

水橋さおり



今回の研修では、自分という存在や自分の物の見方などを客観視しつつも、そんな自分を少しだけ温かく見守ることが出来る時間になりました。

講師の西章男さんから教えていただいた前田ケイさんの言葉「社会福祉の仕事は、一人一人を大切にすることなので、学生は教育の過程で一人の人間として大切にされる体験をもってこそ、よいソーシャルワーカーになることができるのです」



▲ 研修の様子

自分へそして大切な同僚や後輩への寄り添いに必要な、温かい心のエネルギーを補充できた研修をありがとうございました。

「もっともっと」「頑張ってみよう。やれるー!」と、専門職としての責任を全うしようと突き進んできましたが、今日から少しだけそんな自分を褒めて認めてみようと思います。また、誰かを頼り「SOS」の出せる自分でありたいと思います。

そして素敵な1曲の中の「頑張りは次々に身につけてきたのに頼り方はなぜ身につけていないだろう」という歌詞。どちらも、これまでの自分とこれからの自分ととって大切なフレーズとなりました。



▲ 研修の様子

## 25年度 社会福祉士受験対策講座・模擬試験実施

受験対策委員会 横手 由利

本年度も社会福祉士の資格取得を目指す社会人や学生を対象に、受験対策講座と全国統一模擬試験を開催しました。

▲ 講座の様子

受験対策講座は8月31日～10月5日までの5日間、共通科目・専門科目を合わせた全19科目に対して、試験の傾向と対策や模擬問題を使った講義が行われました。普段は一人で勉強している方も、同じ目標に向かって励む仲間と知り合う機会にも繋がりました。講義の合間には、受講者が積極的に講師へ質問する姿も見られ、今までの理解が出来ていなかった苦手科目の学習が出来たとの声も聞かれました。全国統一模擬試験は10月19日に実施し、本番の国家試験に近い雰囲気での受験となりました。本講座が社会福祉士を目指す方の一助となり、将来ともに現場で活躍できる仲間が増えることを期待しています。

さらに来年度の開催に向けては、近年の受講者ニーズを捉えるとともに、社会福祉士会ならではの講座内容に刷新できるように計画を進めているところです。



## 社会福祉士会ならではの 講義内容に刷新



不登校・ひきこもり支援の最前線を学ぶ  
精神科訪問看護の専門職2名が現場の知を共有

子ども家庭支援委員会研修

11月8日、嘉島町民会館にて、子ども家庭支援委員会主催の研修会「不登校・ひきこもり支援」が精神科訪問看護の現場より」が開催されました。

講師は、医療法人社団松本会訪問看護ステーション「ハイビスカス」の職員公利氏と、希望ヶ丘病院の伊藤寿浩氏です。両氏は、不登校やひきこもりの背景には、家庭環境、生育歴、特性、学校要因など複数の要素が絡み合っていることを丁寧に説明されました。



▲ 研修の様子

なかでも参加者の関心を集めたのが、支援における「バウンダリー（境界線）」の考え方です。子ども、家族、支援者それぞれが無理に距離を縮めようとせず、踏み込みすぎず・放任しすぎず、適切な距離感を保つことが回復の土台になるという指摘は、多くの現場職員にとって大きな学びとなりました。

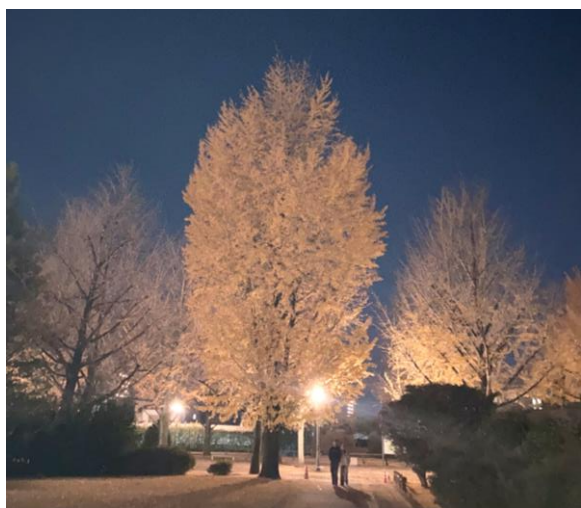
さらに、信頼関係を築くためには、時間をかけて丁寧に耳を傾け、小さな成功体験を少しずつ積み重ねることが重要だと強調されました。対象者のペースを尊重し、すぐに結果を求めないことが大切であるとの説明がありました。

事例紹介では、本人支援と同じくらい家族支援が重要であることが示され、具体例を交えた解説により理解が深まったという声が多く聞かれました。

研修の締めくくりとして示された、「そのひとが、そのひとらしく安心して生きやすい社会を」という言葉は、支援に関わるすべての者が胸に刻むべきメッセージであり、本研修のエッセンスを端的に表していました。  
(広報委員会 魚谷)



よかよか  
余暇良か写真館



投稿者 R.Mさん  
「色づくいつもの散歩道」



投稿者 A.Mさん  
「長～い夏の終わり」

ここでは、会員の皆様から投稿があった余暇の時間のお写真を紹介します。スマホのカメラからでも投稿できますので、ぜひ皆様からの写真の投稿をお待ちしております。

会員の皆様へ 次号の広報誌 85号(4月)

よかよか  
余暇良か写真 大募集



kouhou.csw@gmail.com

こちらのメールにお気軽にご投稿ください。

※氏名(イニシャル、ペンネーム可)、写真タイトルを添えてください。



# 研修会のご案内

りんどう相談支援センターより

25年度 熊本県ハンセン病  
医療・福祉研修会

日時▼26年1月23日(金)

13時30分～

場所▼熊本県庁防災センター

熊本市水前寺6丁目1-8番1号

対象▼医療福祉等関係者

詳細▼ハンセン病の医療、介護、  
地域支援の実際等

## 菊池恵楓園で学ぶ旅

日時▼26年3月27日(金)

13時40分～

場所▼菊池恵楓園

合志市米3796

対象▼一般

詳細▼園内見学・歴史資料館見学  
入所者講話等



※詳細については、研修時期に合わせ社会福祉士会およびりんどう相談支援センターのホームページに掲載します。

子ども家庭支援委員会より  
1月研修会のご案内

思春期の子どもに対する対応等  
講師 玉名病院 川原一洋院長

日時▼26年1月10日(土)

13時30分～15時30分

場所▼熊本市大江公民館会議室C

熊本市中央区大江6丁目1-85

定員▼30名程度

会費▼会員・学生は無料・非会員の  
方は千円

※切▼26年1月5日



申し込みフォーム



25年度

災害時支援活動者養成研修

本土会から災害派遣する際の災害支援活動者を養成します。  
災害時の支援や平時の備えなどを一緒に考えましょう！

日時▼26年1月24日(土)

13時30分～16時30分

会場▼八代市 太田郷コミュニティセンター会議室

※切▼26年1月16日

申し込みフォーム



熊本市南ブロック宇城ブロック  
合同研修会及び情報交換会

①合同研修会

日時▼26年1月31日(土)

15時30分～17時

会場▼ウイングまつばせ

内容▼司法福祉ソーシャルワーク

②情報交換会

日時▼17時30分～

会場▼中国四川料理 大明天



天草、水俣、芦北ブロック、災害時  
支援委員会、会員サービス委員会  
合同コラボ研修会

日時・内容▼

1日目

26年2月14日(土)13時30分～17時

「ホワイトボードミーティング®について」

2日目

26年2月15日(日)9時10分～12時

「災害支援ソーシャルワークについて」

会場▼天草市複合施設「こらす」

懇親会▼2月14日(土)

18時～場所未定

※参加費5千円を予定

宿泊▼場所未定

※宿泊費は5千円～  
7千円超を予定

申し込みフォーム



## 熊本市北ブロック研修会

「気軽に集まり、ゆるつと学んで、  
しっかりとつながる」“仲間づくり”  
のための研修会」

日時▼26年2月21日(土)

14時～16時30分

会場▼熊本市北部公民館本館

対象▼全会員



## つぶやき

ある視覚障がい当事者と  
何気ない会話の中で「最近、  
健康のため朝タンしよると  
よ」との発言に対して、「え  
っ、朝から牛タンですか  
(笑)」って返答しました。  
ツボに入ったようで、ずっと  
笑われてしまいました。

「朝タン」とは、朝食にタ  
ンパク質を多めに摂取する習  
慣のことで、睡眠中に消費さ  
れたアミノ酸を補給し、筋肉  
の分解を防ぎ、代謝を高め、  
日中の活動力や集中力を向上  
させることが期待されている  
ようです。

忘年会や新年会など食生活  
が乱れる時期のため、皆さん  
も一緒にタンパク質を意識し  
た朝タン生活を始めてみませ  
んか？  
(広報委員会 田上緒)

CSWくまもと84号

【事務局】

一般社団法人

熊本県社会福祉士会

熊本市東区健軍本町1-22

東部ハイツ105

TEL 096-285-7761

FAX 096-285-7762

発行責任者 梅田 孝子

編集責任者 田上 緒

発行月 2025年12月

詳細はホームページを  
ご参照ください

「ホーム」→「研修・講演」



<http://kumacsw.com>